

(別紙様式)

実践活動事例

団体名 村山市青少年育成市民会議

- | | |
|--------|---|
| 1 事業名 | 未来フォーラム～村山市の明るい未来を築くために～ |
| 2 事業主体 | 村山市青少年育成市民会議 |
| 3 事業目的 | 「次の世代に引き継ぐ魅力ある村山市」を築くには、次代を担う青少年を健全に育成することはとても大切であるため、広く市民の総意を結集し、密接な連携・協力をしながら各種団体、行政・教育関係団体がともに一体となって、青少年健全育成に対する市民の意識高揚を図ることが必要である。そこで、村山市の明るい未来を築くために、家庭・地域・社会の一員として、子どもたちが心ゆたかに健やかに成長する一助になることを目的として、本フォーラムを開催する。 |
| 4 実施状況 | <p>下記のとおり（開催要項より一部抜粋）</p> <p>■ 日 時 平成28年11月19日(土)9:30～11:50</p> <p>■ 会 場 村山市総合文化複合施設 甌葉プラザ</p> <p>■ 内 容 <u>(1)村山市の子どもたちが頑張っている姿を披露する場とする。</u></p> <p>①地域で頑張っている姿
自らの意思で地域の活動団体に所属し自己を高めている子どもたち</p> <p>②学校の代表として頑張っている姿
先生方の指導のもと、学校の代表として懸命に取り組む子どもたち</p> <p>③学校の一員として頑張っている姿
各学校で、児童会や生徒会の取組み(『いじめ・非行をなくそう!』や『学校を明るくするため!』)を実践している子どもたち</p> <p><u>(2)学校・家庭・地域が連携できるよう考える場とする。</u></p> <p>上記③について、9つの学校区ごとに各学校の取組みを大判用紙にまとめたものを準備し、そこからコーディネーターの進行で話題を広げていく。それぞれの取組みの良い点に気付き、家庭や地域でもできる関わり方について大人と子どもと一緒にワークショップし、連携の重要性に気付く。</p> <p>◆ワークショップ参加者</p> <p>○市内各小・中学校代表児童・生徒(各テーブル3名以上)</p> <p>○市民会議役員、PTA役員、育成会役員、青少年育成推進員など</p> <p>■ 対 象 一般市民</p> <p>■ 日 程 09:30 オープニング(地域活動発表)
・徳内ふれあいスポーツクラブダンスサークル Cheer up! N's
09:42 開会行事</p> |

- ・『青少年健全育成標語』15名及び『いじめ防止標語』入賞者12名表彰式
- ・主催者あいさつ(大沼会長)
- ・来賓あいさつ(村山警察署長)

10:05 少年の主張3名及び意見発表1名

10:40 ワークショップ趣旨説明

10:42 ワークショップ

11:12 テーブルごとにまとめの時間

11:17 各テーブルまとめの発表(3分×9テーブル)

11:47 総まとめ「村山市の明るい未来を築くために！」

5 実績・成果

11月19日「むらやま教育の日」制定にあわせた行事「むらやま教育の集い」のメイン事業に位置づけられた「未来フォーラム」は大きく分けて2つの役割がある。1つ目は、子どもたちが地域や学校で頑張っている姿を披露する場としての役割。2つ目は、学校・家庭・地域が連携できるよう考える場としての役割である。ワークショップは、1つ目の役割の中の③「学校の一員として頑張っている姿を披露する場」と、2つ目の学校・家庭・地域が連携できるよう考える場として実施。各青少年育成関係団体の役員や小中学生、一般市民の約160名が参加した。

ワークショップでは、子どもと大人が同じテーブルで、同じ目線に立って意見を交換し合うことで、よりよい社会環境を築いていけるよう、学校区ごとに児童・生徒と保護者・先生・地域の方が、コーディネーターが投げかけるテーマや質問に沿って話し合いがおこなわれた。

初めに、各学校の「学校を良くするため」「学校を明るくするため」「いじめ・非行をなくすため」の特色ある取り組みについて確認。子ども達が特に頑張っている取り組みについて内容を説明。わからない内容は大人が子どもに質問し、取り組みの内容を理解した。

次に、子ども達の取り組みがより進むように、家庭や地域でどんなことができるか、さらに、児童・生徒から大人にお願いしたいことはないか意見を交換。子ども達の思いを直接聞くことで大人が気付かされることも多く、ワークショップをしたことで学校・家庭・地域の連携の重要性や話し合いの必要性を参加者が気付く結果となった。

最後のまとめでは、今年の標語が「温かい会話でチャージ ぼくのパワー」であることから、今回のワークショップを模擬体験と思って、今後の家庭や地域での温かい会話につなげて欲しいと提案された。

6 課題

参加者からは、「このようなワークショップは、子どもと大人の世代間交流の場となる良い機会であり、地域に密着した形でおこなうことは意味がある」「子ども達が学校で頑張っていることがわかった」「大人が応援や協力をしなくてはと思う」などの意見が出たが、未来フォーラムに学校関係者以外の地域の大人からもっと参加してもらえるように工夫するべきではないかと課題があげられた。

7 今後の対応

未来フォーラムは同じ形式で3年間は続ける予定。前年話し合われた内容から学校・家庭・地域で変化があったかどうか、どうすればさらに連携できるかなども、今後の未来フォーラムで話し合いができるよう、ワークショップの内容を検討していく。